

いずみ会/旧都立大泉中学校・都立大泉高等学校同窓会

会報いずみ 第42号

発行/いずみ会 編集/いずみ会会報部
178-0063 東京都練馬区東大泉 5-3-1 都立大泉高等学校内

主な記事

- 2~4 執行部関係
- 5 母校関係
- 6 緑蔭：大泉高校新聞
- 7 国指定史跡「旧鑑屋」
- 8 恩師近況「王の会」
- 9~11 同期会便り、会員の声
- 12 会員インタビュー

総会・懇親会

会場狭しと溢れる笑顔

平成9年10月19日、いずみ会総会・懇親会が母校大泉高校で開催されました。総会は午後1時から多目的教室で開かれ、1時30分からは懇親会が場所を大会議室に移して開催されました。

総会は、田中会長の挨拶で始まり、母校吉野校長から母校野球部やソフトテニス部の活躍が紹介され、また、「いずみ会文庫」開設に伴う会員からの寄贈に対する謝辞が述べられました。引き続き宇多事務局長から平

成8年度事業報告および決算報告、平成9年度事業計画と予算の報告があり、その他一般質問において、一会員から都立高校の将来計画に関して等の質問があり、事務局長、校長の応答がありました。

懇親会は、同窓会会員結成のコーラス部による美しい歌声に迎えられる入場、飯田良弘氏(高27期)の司会で始まりました。卒業期末尾7の「7の会」会長の山田清子氏(高7期)の開会挨拶、石井同窓会副会長の乾

杯では進み、どのテーブルでも一年振りの顔合わせに旧交を暖め、杯を交しました。各界で活躍される会員も日頃の多忙さを忘れて、ご出席下さった懐かしい先生方を囲んで、学生時代の思い出話に華を咲かせました。今年は昨年を上回る181人の参加があり、急遽会場を別にも用意したほどですが、大会議室のテーブルを二重三重に取り巻く人垣もいつしか一つの大きな輪になり、会員の見守る中、来年の当番期「8の会」の中村謙氏(高18期)に伝達のバトンが渡されました。その後全員の記念写真を3班に分かれ撮影し、三々五々散会しました。(石井晴士 高10期)



熟年会員の皆様も益々元気です

総会記録

出席者総数 181名 (前年117名)
 ご出席の恩師 花崎 文一 先生 清水 芳彦 先生
 中山 雄一 先生 菊谷 義美 先生 高沢 昭和 先生
 吉野 尚也 現校長 小野 久保 前教頭

古希の祝いと記念植樹の会 小川喜卯六 中1期



思い出の母校に6月7日(日)正午、四六名が参集、二時間半にわたって旧交を温めた。ここ数年「旧都立大泉中一期会」として集まっているが、今年は七十歳。そこで今回は「古希の祝いと記念植樹の会」と命名、母校での開催を計画、吉野校長からも「皆さんの頑張りで大泉高校の今日があります。ぜひここでやって下さい」と快諾。校長も参加されて会議室での開催となった。

「七十歳になって母校で皆と会えるとは思ってもいなかった」との共通の思いのスピーチが続き、一堂に集えた幸せをかみしめていた。記念植樹は枝垂れ桜で、玄関左側テニスコートの前に植えられた。若木だが三年後の母校創立六十周年には立派な花をつけることだろう。その二〇〇一年の次回再会を約して別れた。



懇親会を支えた「7の会」の皆さん

本年度
いずみ会総会・懇親会
10月25日(日) 午後1時
母校にて開催(詳細は)

役員改選される

定時幹事総会報告

平成10年度のいずみ会定時幹事総会は、5月23日(土)午後2時より大泉高校円形校舎1階において開催されました。円形校舎は高14期以降の会員には思い深い場所でもあります。出席者名は左の通りです。

真柳幹事の司会のもと石井副会長の開会宣言、田中会長の挨拶に続き議事録署名人に平岡静子幹事と原田公彦幹事が選任され、議長に土肥理事は次の通りです。(各々の期名は出席者記録参照)

議事：(1)平成九年度事業報告、決算承認の件(宇多事務局長) (2)平成九年度監査報告の件(新木敬治監査



役) (3)平成十年度事業計画案、予算承認の件(宇多) (4)役員改選の件(寺理事)

以上の議事について、出席幹事満場異議なく承認され、今期をもって退任する理事・監査役が紹介され、会場から労いの拍手がありました。

引き続き報告事項に入りました。

報告事項：(1)「いずみ会」の説明(築理事) (2)「8の会」から活動状況説明(茂木副会長) (3)新名簿の発行等(野島理事) (4)会費納入の促進依頼(西沢理事) (5)会報42号の企画・編集について(武市理事) 順次報告があり、次いで高50期の新幹事の紹介があり(小野田理事)、若い

幹事総会 出席者 記録

登録幹事総数：624 出席幹事数：51 委任状数：228

出席幹事氏名：(中1)名倉光雄(中2)田中英道、菊谷義美、加藤正照、片山達郎、安藤雄一(高2、以下高略)新木敬治、桜井孝(3)藤本尚(5)青山喜彦(6)梅澤やよび(7)山田清子(8)岡崎美代子、茂木光男(9)大軒史子、武市則昭、平岡静子(10)石井晴士(11)富田順子、広瀬芳子、加藤勇、椎葉亮一、小林明子、北上俊人(12)小野田敦子、渋井周而(13)佐藤克子、丸山和郎(14)布施百合子(16)大場修一(18)安斎秀行、杉山明美(20)寺章夫、土肥暁美、栗原正成(21)植村久、岩城隆就(22)河北康子(24)真柳仁、原田公彦(25)宇多正行、吉田寛(28)西澤正博、野島陽子(29)大久保靖(30)築茂之、山本孝文(32)仲沢浩一(50)宮前崇、石川尊士、田所雪香

幹事さん出席を!

「幹事総会はいずみ会の最高議決機関で、各期より選出された、各期二〇名以内の議決権を持った「幹事」によって構成されています。原則的に、年一回の「定時幹事総会」で、会の運営に関する重要事項の議決をします。

今回、六二四名の幹事の方々に幹事総会のご案内を出しましたが、出席数は一割以下でした。

どうか、幹事の皆様にはふらつてご参加をお願いします。事情で幹事を続けられなくなった方は、期の皆さんで相談し改選していただき、一人でも多くの幹事の出席をお待ちしています。

(執行部)

いずみ会 役員名簿

(平成10年5月選出)

顧問	監査役	理事	副会長	会長
吉野	山田	斎藤	野島	西澤
尚也	亮一	清孟	茂之	俊夫
11	7	1	30	29
			28	28
			25	25
			24	21
			20	20
			16	12
			11	9
			2	10
			8	2



新役員の名々・8月の理事会の後で

10月25日は母校へ!

今年1998年の下一桁8にちなみ、卒業期の下一桁8の期の面々が当番期として「8の会」を結成、年一回の親睦の場である懇親会の企画・お手伝いをいたします。

「8の会」は母校の恩師でもある山谷敬之先生(体育・高8期)を会長に、お世話になった先生方の近況を皆さんにご覧いただき、といった企画も考えております。

是非、母校までお越し下さい。



本年5月をもって、左記のいずみ会役員が退任となりました。

新木敬治(高2期) 監査役(写真左)
大軒史子(高9期) 理事(写真左中)
山本章義(高13期) 理事
中村 謙(高18期) 理事
植村 久(高21期) 理事(写真右中)
仲沢浩一(高32期) 理事(写真右)

以上6名の方々です。

本会に対するご尽力に感謝いたします。

平成10年度 事業計画

第1 総会の開催

平成10年10月25日(日) 母校にて開催予定。
一昨年度から当番期を決めて、総会懇親会の企画立案をすることとし、本年度は下一桁が8の期が「8の会」を結成し、それにあたる。

第2 定時幹事総会の開催

平成10年5月23日(土) 母校にて開催。
定例の議事のほか、役員改選の件を討議。

第3 会報の発行

いずみ会報 第42号を9月に発行予定。
内容としては、平成9年度決算・事業報告、平成10年度予算・事業計画、平成10年度総会案内他、の記事を予定。
紙面をB5判からA4判とする。

第4 名簿情報の整備及び充実

平成11年3月に各期の名簿担当者との会合を開催予定。
住所変更や物故情報の伝達ルート、修正入力方法等の見直しの実施。
平成12年度新名簿発行を目指し、検討を始める。

第5 会費納入の呼びかけと情報整備

会費納入制を導入して5年目に入るが、引き続き会報を通じての納入のお願いを呼びかけ、会員への周知を図る。
納入状況把握のためのプログラムをレベルアップさせる。

第6 母校との連携

母校との関係強化のため、今年も懇談会を開催予定。
母校内に設置の「いずみ会文庫」への協力の呼びかけ。
母校開催及びPTA開催の催事への協力。

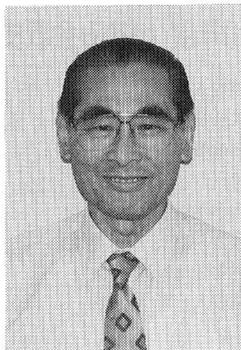
第7 新幹事(50期)との懇談会の開催

若い期のいずみ会への参加意識を高めるため、新幹事といずみ会の懇談会を開き、いずみ会活動への参加、期の名簿の維持管理等を依頼する。

第8 入会式の開催

平成11年3月の卒業式予行後に新卒業生(51期)に対し、いずみ会の会員となることの意義を伝え、会長より新幹事を任命する。

以上



健全な歩調で軌道に

会長 田中英道(中2期)

平成10年度のいずみ会活動は新しい執行部体制で始動しましたが、いずみ会は規約総則の「会員相互の親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的」として活動することに変わりありません。私が会長の責について七年目に入った今日、この目的が徐々に遂行され、会全体が健全な歩調で進んでいるような気がします。昨秋の総会・懇親会で

は会場狭しとばかり笑顔の会員が溢れ、その一人一人が期で固まることなく、肩ふれあいながら、世代を超えてフランクに語りあう風景が見られました。一方母校も益々発展を続け、優秀で個性的な若者が次々と巣立っています。吉野校長先生始め教職員の方々が一丸となり、それをPTAや同窓会が支えあうという構図になっています。その距離は会報41号で吉野先生が呼びかけられた「いずみ会文庫」に見られると思います。先生の書かれた「各界で活躍している卒業生の出版物を集め母校の図書館に置き、在校生の目にふれさせることにより、先輩に対しての尊敬の念を抱かせることが出来、なおかつ

在校生は高く大きな一つの目標をもつことが出来る」という一節は、一人の大家で学んだ者として、また、同窓会を代表する立場の者として大変喜ばしいことです。そして、同窓会としては二万名を越す豊富な人材を擁するとはいうものの、会員の一人一人が懇親会や同期会に集い、会報を読み、意見をお寄せ下さって初めて機能すると思うのです。執行部が数年前から取り組んでいる「広く開かれたいずみ会」若い期の参加促進は今年度も続けて活動指針と致します。皆さんの会費は大切に使い、名簿も充実を続けます。また、今年「8の会」の皆さんが総会に向け活躍してくれることでしょう。校門の校並木は時代を超えて健在です。10月25日には一人でも多くの会員がそのアーチをくぐられることを期待します。

高50期いずみ会幹事

1組	住野 聡	179-0072	練馬区光が丘5-2-2-404	03-3977-7190
	根本 法子	179-0084	練馬区水川4-22-6	03-3932-4014
2組	小島 孝之	178-0061	練馬区大泉学園町6-14-4	03-3921-9600
	菊池 由美	179-0072	練馬区光が丘2-7-3-206	03-3976-9955
3組	鈴木 健太	171-0052	豊島区南長崎3-4-9	03-3954-9519
	鳴原亜貴子	176-0002	練馬区桜台4-40-7	03-3991-8984
4組	君島 憲和	178-0065	練馬区西大泉5-28-11	03-3921-0685
	小倉 一華	179-0073	練馬区田柄3-9-14-107	03-5241-0178
5組	江澤 慶	177-0035	練馬区南田中4-29-19	03-3996-4981
	天野 明子	178-0061	練馬区大泉学園町4-30-1	03-3925-5952
6組	植村 直人	177-0044	練馬区上石神井1-4-8	03-3929-2683
	宮前 崇	178-0061	練馬区大泉学園町4-12-13	03-3921-5528
7組	細川 明寛	176-0022	練馬区向山4-9-33	03-3926-3709
	福間 佳代	176-0023	練馬区中村北2-6-10-401	03-3970-0906
8組	内山 雅充	204-0021	清瀬市元町1-11-13	0424-93-4370
	田所 雪香	178-0065	練馬区西大泉3-25-27-202	03-3923-3364

※幹事の役割は、幹事総会への出席の他、各期の名簿管理・会報の発送などです。高校50期の皆さんは、住所変更等ありましたら、上記幹事にご連絡ください。

入会式

平成10年3月6日、卒業式予行演習の終了後、母校体育館において、新卒業生高50期三二七名の入会式が行われました。田中会長からの歓迎の祝辞、茂木副会長の会の説明の後、計一六名の新幹事一人ひとりに会長より任命状が手渡されました。



新幹事懇談会

平成10年8月1日には、新幹事四名の出席で会執行部と懇談会を催しました。会の概要や幹事の役割の説明をして、今後の名簿情報のとりまとめ等をお願いをしました。なお、期の窓口幹事は植村直人さんと田所雪香さんが選ばれました。



田所さん 小倉さん 小島さん 植村さん

平成9年度 いずみ会収支決算

平成10年3月31日

第1. 収入の部		
1 新入会員入会金(325人)	1,625,000	
2 本年度分会費(2491人分)	2,491,000	
3 寄付	730,000	
4 総会参加費	333,000	
5 雑収入(利息、祝儀等)	61,645	
6 前期繰越金	4,956,218	
7 名簿・50周年記念誌売上	35,500	
収入合計	10,232,363	
第2. 支出の部		
1 総会費	430,101	
2 役員、幹事会合費	410,940	
3 監査役会費	4,450	
4 会報費	2,153,665	
5 会費徴収経費	97,440	
6 名簿調査管理費	139,612	
7 母校連絡費	135,000	
8 新会員向け名簿作成費	18,105	
9 雑費	36,157	
10 名簿積立金支出	600,000	
11 予備費	104,996	
12 設備、什器、備品費	384,178	
(小計)	(4,514,644)	
13 次期繰越金	5,717,719	
支出合計	10,232,363	

いずみ会財産

平成10年3月31日現在

会計係手持現金	76,019
普通預金(富士)	141,700
定額貯金	5,500,000
定期積立預金	2,200,000
郵便貯金	3,042,176
定額貯金(1)	10,000,000
〃 (2)	4,050,000
	25,009,895円
前受会費等	17,092,176
一般会計次期繰越金	5,717,719
名簿積立引き当て金	2,200,000
	25,009,895円
同窓会名簿(いずみ会50周年記念版)	591冊
高校50周年記念誌	245冊
パソコン	3台
プリンター	1台

平成10年度 いずみ会収支予算

第1. 当期収入の部		
1 新入会員入会金(327人)	1,635,000	
2 本年度分会費(2647人分)	2,647,000	
3 寄付	482,000	
4 総会参加費	250,000	
5 雑収入(利息、祝儀等)	50,000	
6 50周年記念誌売上	10,000	
当期収入合計	5,074,000	
第2. 当期支出の部		
1 総会費	400,000	
2 役員、幹事会合費	420,000	
3 監査役会費	10,000	
4 会報費	2,410,000	
5 会費徴収経費	87,400	
6 名簿調査管理費	300,000	
7 母校連絡費	150,000	
8 新会員向け名簿作成費	40,000	
9 雑費	50,000	
10 名簿積立金支出	600,000	
11 予備費	100,000	
12 設備、什器、備品費	200,000	
当期支出合計	4,767,400	
第3. 当期収支の部		
1 当期収入合計	5,074,000	
2 当期支出合計	4,767,400	
当期収支差額	306,600	
前期繰越金	5,717,719	
次期繰越金	6,024,319	

平成9年度 活動の記録

- 平成9年4月24日 会計監査
- 5月24日 定時幹事総会開催
- 7月12日 高校懇談会
- 8月1日 新入幹事懇談会
- 9月9日 会報41号発行
- 9月13日 規約改正意見交換会
- 10月19日 総会・懇親会開催
- 平成10年3月6日 入会式
- 3月16日 名簿幹事懇親会
- 理事会を延べ7回開催
- 「7の会」打合せを延べ7回開催

2000年に新しい会員名簿を作るための準備が始まりました。

住所変更された方、結婚等で姓が変わった方、あなたの回りに会報が届いていない方等、いらっしやいましたら左記FAXでお知らせ下さい。来年からまた、会報をお送りします。そして、新名簿にも掲載致します。卒業期・現姓・名・旧姓・ふりがな・郵便番号・自宅住所・自宅電話番号・勤務先名(勤務先電話番号) 号・勤務先名(勤務先電話番号) 号。なお、平成7年作成の会員名簿は会員向け在庫が無くなりましたので、(財産目録にある名簿591冊は来

年、再来年の卒業生の配布分です。)ご希望の方はあと2年程お待ち下さい。ただし、同期会の開催で名簿が必要な期、また、名簿の本格的な調査を考えている期については調査費の一部を会で補助する方法もありますので併せてFAXにてご連絡下さい。「いずみ会」名簿情報受付窓口 FAX03・3920・2374 役員の自宅電話ですので必ずFAXとして下さい。



平成9年度 総会



平成9年度 定時幹事総会

会費

会費制を導入してから、今年度で5年目に入りました。数多くの方々に協力いただき、会の活動も、ようやく軌道に乗りました。いずみ会活動の主な原資は、①いずみ会入会時(高校卒業時)に納入いただく入会金。②卒業後10年を過ぎた年度から、年1千円の納入のお願いをしている年会費。③そして寄付です。

また、会の支出の約半分は、今お読みいただいている、この会報の制作や発送経費です。毎年、確実に増加する同窓会員への会報のお届けを、継続して滞りなく行うためにも、ぜひ会費納入のご協力をお願い致します。なお、会費に関する規定は、以下のとおりです。

- Q・会費はどの様に払えばいいの?
- A・会報に同封されている振込用紙にてお願いします。
- Q・終身会費を払い済みなのに、なぜ振込用紙が同封されているのか?
- A・発送作業上、区別が困難なためです。ご了承ください。
- Q・2千円の会費を支払ったときの計上方法は?
- A・納入年度とその翌年度に、千円づつ計上します。
- Q・会費はいつまで払うのか?
- A・70歳に達する年度までです。それ以降、それ以上のお振り込みは、ご寄付として取り扱います。(という事は、寄付はいつでも大歓迎です)

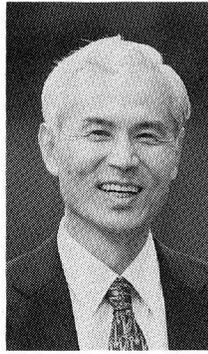
記念樹

校長 吉野尚也

昭和16年(1941)に開校された本校は、今年で五十七年目となり、平成13年(2001)の創立六十周年まであと三年です。

去る6月7日の日曜日、第一期生が本校で「古希の会」を開き、「記念樹」として一本のしだれ桜を植えて下さり、立派な銘板も添えて戴きました。

その折、私の挨拶の中で「第一期生の卒業証書」や「卒業生の著書」



学校行事 平成10年度

- 4月9日 入学式
- 5月8日 体育祭
- 9月19日・20日 文化祭
- 9月24日・25日 球技大会
- 1月17日・20日 二年生HR合宿
- 3月6日 卒業式 (沖縄)

5月に行われた体育祭は、大泉名物砂嵐の中で行われました。生徒達の元氣一杯の動きは、正面から襲ってくる砂嵐に怯まず、強風の音に負けず、一糸乱れぬ演技と応援を繰り広げました。

どうして倒れないのか不思議に思われるくらいの強風の中、二つのマスコット「ガチャピンとムック」は、がっちり立っていました。



等、六十周年を飾るにふさわしい物を御寄贈賜りたいとお願ひしたところ、早速、室岡校長直筆の貴重な卒業証書・新聞記事・句集等を送って戴きました。

その記事には、第一期生の入学試験は豊島師範で行われ、初代校長・室岡孝治先生が受験生全員を面接され深夜にまで及んだと書かれています。教育とは、次代に生きる人間を育てることによって次代を創造する、人間としての基本的な営みであります。二万名を超える卒業生と多くの教職員、保護者、そして地域の方々が築き上げた素晴らしい大泉高校の伝統を次に伝える責務を重く感ずるこの頃です。

教職員人事異動(敬称略)

▼転出・退職(新任校)

- 教頭 小野 久保(退職)
- 国語 藤原 満(大泉学園)
- 社会 伊藤真知子(狛江)
- 数学 間宮 祐一(足立・定)
- 数学 山崎 隆一(小松川)
- 理科 杉山 和正(明正)
- 美術 村井 和夫(立川・囀)
- 養護 竜見 五月(退職)
- 理科 田中 弘和(退職)
- 養護 木内 元子(退職)
- 事務室長 向江 芳樹(下水道局)
- 転入・新規採用 (前任校)
- 教頭 須藤 勝(新島)
- 国語 川島 裕子(保谷)
- 数学 林 康夫(武蔵村山)
- 理科 笠原 一郎(板橋)
- 美術 田中 敏雄(田無)
- 養護 堀江 彩恵(新規採用)
- 英語 細沼 文雄(保谷)
- 事務室長 佐藤公俊(都市計画局)

活躍のしどころ

▼ソフトテニス部

男子ダブルス 関東大会出場

▼漕艇部

四月のレガッタ、ナックルフォア、シエルフォアの戦績は都漕艇協会のランキングによれば高校の部第2位

▼野球部

去る7月12日、全国高校野球夏の甲子園を目指す西東京大会で、投手大泉友人君が都立北多摩高戦でノーヒット・ノーランを達成。

打者二人に対し、三振13、四球3、犠打1。大泉6-0北多摩

その後は、残念ながら3回戦で都立久留米高に惜敗しました。

進路状況

平成10年進路資料より

【国公立大学】

大学名	新卒	旧卒	合計
筑波	1	5	6
千葉	3	2	5
茨城	2	1	3
埼玉	2	5	7
東京外語	1	2	3
東京学芸	1	0	1
東京農工	2	3	5
電気通信	2	1	3
横浜国立	2	0	2
宇都宮	0	1	1
信州	0	1	1
徳島	1	0	1
都立	1	1	2
横浜市立	0	2	2
高崎市立	0	1	1
その他	1	2	3
合計	19	28	47

【私立大学】

大学名	新卒	旧卒	合計
青山学院	5	10	15
亜細亜	6	1	7
跡見女子	2	0	2
桜美林	3	0	3
大妻女子	3	0	3
麻布	1	2	3
学習院	5	6	11
神田外語	0	1	1

神奈川	1	4	5
関西	1	0	1
北里	1	0	1
共立女子	3	1	4
杏林	2	0	2
國學院	3	5	8
工学院	5	2	7
駒沢	7	7	14
慶應	3	1	4
実践女子	1	0	1
芝浦工業	2	4	6
上智	0	3	3
昭和女子	2	0	2
昭和薬科	0	1	1
女子栄養	3	1	4
白百合女子	2	0	2
成蹊	17	8	25
成城	4	0	4
清泉女子	1	0	1
城西	1	0	1
専修	6	4	10
創価	1	3	4
淑徳	2	1	3
女子美術	1	0	1
順天堂	0	1	1
大東文化	9	5	14
拓殖	4	0	4
玉川	4	1	5
多摩美術	1	0	1
東海	0	2	2
大正	2	1	3

中央	21	8	29
津田塾女子	0	1	1
東京家政	6	2	8
東京経済	2	1	3
東京女子	4	0	4
東京電機	1	2	3
東京農業	1	7	8
東京薬科	2	3	5
東京理科	4	9	13
東京国際	1	1	2
東邦	1	3	4
東洋	10	10	20
帝京	1	1	2
多摩	0	1	1
獨協	7	2	9
高千穂商科	1	0	1
東京工科	1	0	1
日本	16	16	32
日本女子	2	2	4
日本獣医畜産	0	1	1
日本社会事業	2	3	5
法政	18	13	31
星薬科	1	2	3
文教	1	0	1
文京女子	2	0	2
武蔵	11	10	21
武蔵工業	0	1	1
武蔵野美術	0	2	2
武蔵野女子	2	1	3
明治	16	19	35
明治学院	7	2	9

明治薬科	0	3	3
明星	3	1	4
明海	1	1	2
立教	19	7	26
立正	2	2	4
立命館	2	0	2
早稲田	4	8	12
東京女子医大	0	1	1
その他	4	10	14
合計	290	231	521

【短期大学】

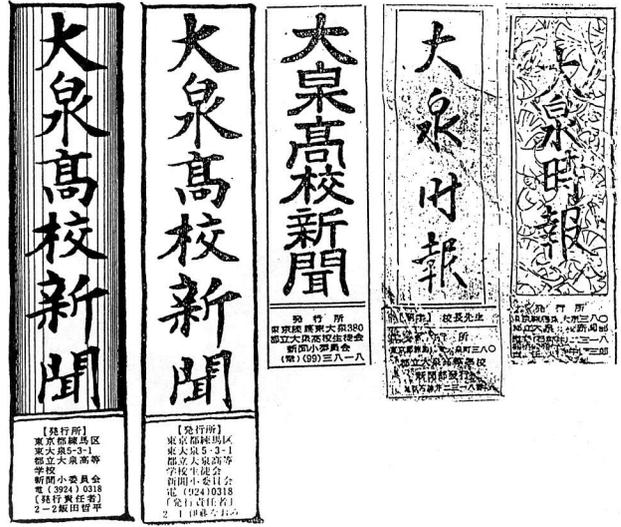
大学名	新卒	旧卒	合計
都立立川	1	1	2
千葉医療技術	0	1	1
青山学女	2	1	3
共立女子	2	0	2
駒沢女子	1	0	1
淑徳	1	0	1
東京農業	1	1	2
東洋女子	2	0	2
東洋	2	0	2
明治	1	0	1
立教女学院	1	0	1
その他	8	0	8
合計	22	4	26

専門学校等	14	20	34
就職	2	1	3

緑蔭

間もなく200号!

母校の資料室に眠っていた学校新聞の束を新聞部OBの栗原氏がひもといてみました。



高等学校の新聞というものは、メディアとしては不思議な存在です。読者のほとんどは在校生。従って読者である期間はだいたい3年間、作り手も在校生、こちらの活動期間は2年間位、中にはもう少し長く関係してしまふ人もいます。

■それでも50年・百七十号

「高等学校新聞」なんかムダだ、ヤメテシマエといつて廃止した学校もあるということ。ところが、大泉の新聞は百七十号を超えてきています。「大泉高校新聞」の前身である「大泉時報」から数えれば、間もなく二百号にもなるのかというところ。新聞としての第一号は、昭和25

あのときはこう考えていた

昭和30年3月1日発行(第23号)

問 高校生は政治に関心を持つべきか
持つべきだ 92.0% 持つべきでない 6.3%
問 実際に持っているか
持っている 76.4% 持っていない 19.6%
問 再軍備には賛成か
賛成 19.8% 反対 67.7% NA 12.5%

昭和60年3月11日発行(第128号)

問 あなたは現在(夢)を持っていますか
(男子) Yes 72%, No 20%, DK 8%
(女子) Yes 73%, No 24%, DK 3%
「悩み」についても質問があります。
「悩み」の1位は「勉強進学」(約4割)、以下「異性」「性格」などがあり、心配無しも2割近くいる。

昭和61年3月14日発行(第132号)

「仕事は男性、家事、育児は女性という男女分業に一般論として賛成か」
(男子) Yes 43%, No 15%, CC 40%, NA 3%
(女子) Yes 16%, No 30%, CC 50%, NA 4%
男子に「将来、結婚相手が就業を希望したら同意するか」
Yes 46%, No 17%, CC 36%, NA 2%
Yesの人に「いつまで」
子供が出来るまで 60%
その後も 40%
女子に「将来仕事につきたいか」
Yes 95%, No 5%
Yesの人に「いつまで」
結婚まで 26%
子供が出来るまで 31%
その後も 40%
NA 3%
NA:無答 DK:分からない CC:場合によって

年6月22日に発行されましたから、新制高校としては最も初期の頃のものかと思われまふ。しかも、この時期に新聞活字で活版刷りという立派なもの。噂では「大泉時報」の前身として「弁論月報」という冊子が

あったことですが、実物がなく今回は確認できませんでした。新聞発行が継続できたのは、関係した多くの皆さんが、いろいろな立場でバックアップをされたり、献身的な努力を重ねられたからにほかなりません。しかし、ただバックアップや努力があったからというだけではなく、もう少し理由があるように思われます。

提起の形で新聞紙上に登場してくることでしよう。はたして、その問題提起で、問題は解決したかどうかは、なかなか分かりかねます。また、「大泉高校新聞」には悪意に満ちた暴露的な記事が少ないのも特徴でありまふ。

生徒会の沈滞化に警鐘
生徒会の機関誌ではありませんが、結構、生徒会の沈滞・不活発には警鐘を鳴らし続けています。生徒会不変のテーマは、生徒会の活性化ということでしょうか。

生徒の立場での記録
まず第一は、生徒の目からみた学生生活が記録されていることでありまふ。当然、学校という立場での「公的な」記録は学校に公式記録として、残されておりまふ。しかし、たとえ旧聞であっても、ある瞬間、ある事象を、生徒がどう感じていたのか、生徒は何をしようとしたのか、ということが、生徒の目を通して記録されているのは「新聞」だけと言えまふ。

公的記録には残らない記録
第二に、公的記録には残らない裏面的な内容、対外的には必ずしも名譽ではないような内容でも、問題

「食」の記録は豊富
「食」の問題は、既に創刊号(昭和25年)に、6月12日購買部でパンの販売開始、全品1個10円と記されています。昭和31年寿司(30円)や、くだって昭和40年11月25日うどんの販売が始まっています。この間、校外に昭和34年通称「赤線」、昭和40年通称「青線」が開店しています。校内の「山田うどん」も最盛期には昼休み中手が休まらないほどだったようですが、最近ではコンビニ弁当に押されているようです。何年に一度は、「高いのマイイ」が記事になるようです。

広告無しの伝統
さて、生徒会の機関誌として新聞小委員会が編集している「大泉高校新聞」には創刊号から広告がありません。実は前身の「大泉時報」も大泉高校新聞部発行には広告が掲載されています。長い歴史のなかでは、広告掲載への動きもありましたが、生徒会機関誌として、広告は載せないという方針が貫かれています。

変化激しい「衣」の記録
「衣」ということでは、昭和32年3月2日付け第33号に「下駄履き許可制」という記事があり、昨秋から今年にかけて激減と報じています。同じ号には「標準服」のことも記事になっていきます。そして昭和47年、標準服は廃止、服装は自由。平成10年3月7日第百七十号では、写真たっぶりのベスト・ドレス・コンテ

「食」の問題は、既に創刊号(昭和25年)に、6月12日購買部でパンの販売開始、全品1個10円と記されています。昭和31年寿司(30円)や、くだって昭和40年11月25日うどんの販売が始まっています。この間、校外に昭和34年通称「赤線」、昭和40年通称「青線」が開店しています。校内の「山田うどん」も最盛期には昼休み中手が休まらないほどだったようですが、最近ではコンビニ弁当に押されているようです。何年に一度は、「高いのマイイ」が記事になるようです。

■今後は、どうなる?
新聞は、あくまでも現役の生徒の作るものでありますが、やはり社会の動きにも一層敏感に、立派な「新聞」であってほしいと願っています。

(栗原邦夫 高7期)

国指定史跡「旧鑑屋」を訪ねて

山形県酒田市内に、日本唯一現存する廻船問屋「旧鑑屋」の保存修復工事がこの程終わり、本年四月から一般公開されることになりました。

第20代目当主の鑑谷氏を同期の片山氏が訪ねました。

片山 中2同期の鑑谷君の旧邸が、国指定史跡として、今回解体修復され完成オープンしたことをお祝いいたします。多くの同窓生の中で、自邸が国の史跡に指定されたことは、同窓生としてたいへん誇りに思いますので、お伺いしました。旧鑑屋の歴史などのお話を伺いたいのですが、鑑谷 どうもありがとうございます。「旧鑑屋」は幕末の弘化2年(一八四五)に火災で建物が類焼しましたが、その後すぐに、以前と同じように建て直しをしたと伝えられています。江戸時代には湊町酒田は西の堺と並べられる程栄えましたが、その頃から中心的な廻船問屋として日本海海運に大きな役割を果たしたこと、そしてその頃と同じ場所に商家風建物が現存していたことが、当時の経済活動の処点を示すものとして昭和59年5月に国の史跡として指定を受けました。

片山 君の姓と旧鑑屋とは「や」の字が違っていますが、何かいわれがあるのですか。

鑑谷 当初は当時の領主であった戦国大名の最上義光公(もがみよしあき)から頂戴した屋号でした。それが江戸中期に苗字らしく改めたのであります。片山 酒田は泉州堺のような自由都市と聞いていますが。鑑谷 酒田には酒田三十六人衆という自治制度がありまして、堺でいう会合衆(えごうしゅう)と同じ性格のもので、財力があることと領主の仕事を負うことによつて、制限はされていましたが一種の自治権を与えられていました。こういう自治制度が明治初年まで続いたのは酒田だけでした。

片山 鑑屋は酒田三十六人衆の中でどういう立場だったのですか。

鑑谷 三十六人衆というのは、毎月三人づつが月番として町政を担当しますが、そのうちの三人が町年寄としてその中核をなしました。私の祖先は歴代その役目でした。片山 当時の鑑屋の繁盛ぶりが井原西鶴の「日本永代蔵」に出ていますね。

鑑谷 元禄元年に出版された「日本永代蔵」は、西鶴が旅をしてきた人の情報をもとに書いたものといわれています。



鑑谷 誠一

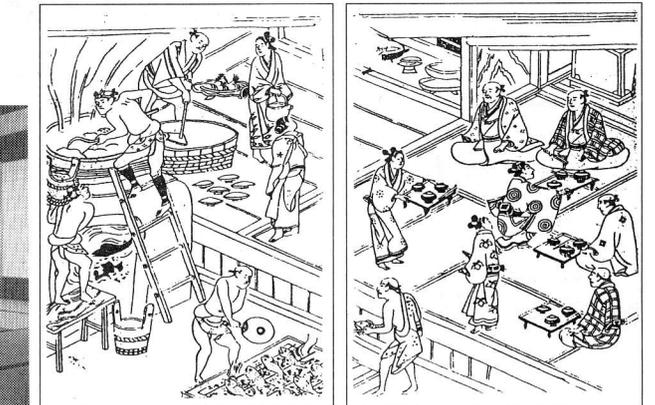
あぶみやせいいち
中2期。東大法卒。荘内銀行入行。取締役東京支店長を経て、常務取締役、常勤監査役を歴任し現在、非常勤監査役。山形県公安委員。鑑谷家20代目当主

片山 達郎

かたやまたつろう
中2期。現在いずみ会幹事。



屋根は玉石を敷きつめた「石置杉皮葺屋根」



井原西鶴「日本永代蔵」の挿図

ていますが、「鑑屋は問屋本来の仲介の仕事に専念し、まったく堅実で、経営に何の不安もない」と称賛され、「これなら仕入れの金を預けておいても、安心して寝られるだろう」と嬉しくなるようなことが書いてあります。

片山 亡くなられたシャンソン歌手の岸洋子さんの顕彰の実行委員長をしておられるとか。

鑑谷 彼女は酒田出身で、オペラを目指したアルト歌手でした。日本の唄も数多く歌い、深々とした声で聞くものの心の底までしみ入るような偉大な音楽家でありました。その彼女の残していったものを末長く後世に伝えたいと思い、お手伝いしています。

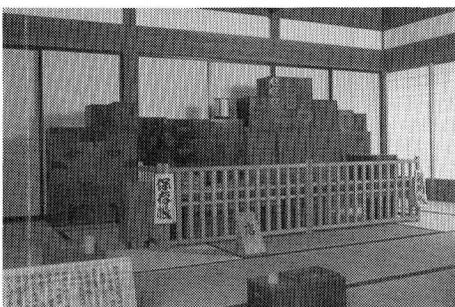
片山 酒田といえば、テレビドラマ「おしん」で有名ですが、演じた小林綾子さんを大泉の同窓とは知らなかったそうですね。

鑑谷 そうなんです。一度学校の夏休みに「旧鑑屋」に来られて、ドラマを離れた撮影をしたことがありましたが、彼女が大泉の後輩と聞いてほんとに嬉しくなりました。彼女はきつと偉大な女優になることでしょう。

片山 最後に、酒田周辺の温泉、観光名所を伺いたいのですが。

鑑谷 酒田には、戦前の日本一の大地主「本間家」の本邸と本間美術館、明治26年建設以来未だ現役の米蔵、山居(さんきよ)倉庫など見所が沢山ありますが、他を省いてもここだけは観て下さいというのが、酒田市出身のリアリズム写真の巨匠、土門拳を記念して建てられた「土門拳記念館」です。環境内容とも第一級品です。温泉でしたら温泉(あつみ)・湯野浜・湯田川といったところで

どうか。同窓の皆さん、是非一度酒田においで下さい。お待ちしております。ります。



復元された帳場

解説・江戸時代初期、北陸の米の集積、積出し港となった酒田は日本海航路の整備で、天下の台所大阪と直結し大きく繁栄し、その中でも鑑屋は酒田の中心的大廻船問屋でした。廻船問屋とは、荷主の宿泊機能と、荷主の商品の販売や買付けの斡旋、荷物の保管等、現代の商社のような機能を兼ね備えた施設だったと考えられます。(酒田市広報紙より)

「王の会」見学記

梅雨の合間の晴れたある午過ぎ、私は杉並区立社会教育センター「セシオン杉並」の一角にある二階の和室を訪ねました。部屋にはすでに碁盤が二面置かれ、三人の先生方が間もなく始まるうとしている「烏鷲の戦」の前の歓談に時を過ごしておられました。その面々とは、橋本精一(国語・菊谷義美(数学)・佐田疆(社会)の三先生です。この囲碁の会を「王の会」と銘打って、以来十年間、その連綿とした流れの絶えることもなく、この日はその第百五十九回目の定例会の日なのでした。

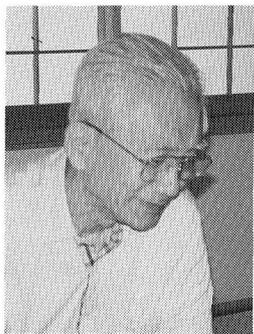
さて、話は昭和63年に遡ります。その七月のある日、宇高ちさ先生(数学)の小唄の発表会を聴きに行った橋本・菊谷両先生は、帰りに菊谷家で碁を打ち、そこで話がはずんだことがこの会の誕生のきっかけとなり、大石清司(国語)・佐倉康(社会)両



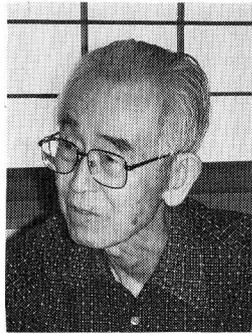
先生の参加を得て、いよいよ囲碁の会が発足しました。定例会を毎月の第一土曜日と決めたことから、「十土王」という無類の公式が編み出され、そして生まれた「造形」文字がこの会の名称となったということです。おそらくこの一文字が、この会の悠然とした、また典雅な雰囲気を保つのに力があつたのでしょう。王といえば将棋だろうという常識を超えたところに遊ぶ心がまた「いとをかし」であるなと思いました。程なく滝沢順先生(社会)が見えて、組み合わせがびつたりとなつたところで、いよいよ対局が開始されました。一局は橋本・佐田戦、他の一局は菊谷・滝沢戦です。手順が進むにつれて部屋の空気は張りつめたものになっていきました。一手一手に集中している対局者の姿は、ポーズこそ違え、ロダンの「考える人」

さながらの迫力を発散しています。取材班カメラのフラッシュはまるでこの場が名人戦の対局室でもあるかのような趣きを呈しました。

さて、対局の方は、菊谷軍の小隊が滝沢軍の包囲網のなかで退路を断たれて万事窮し、また橋本勢は、佐田勢に競り勝つて二局とも決着が付きました。一言二言づつ感想を述べ合うだけで、互いに相手が代わり、早くも第二局目が始まりました。



菊谷義美先生



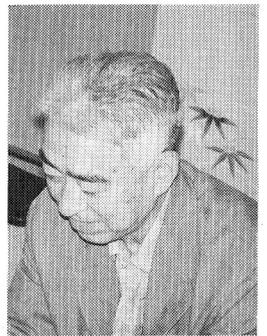
橋本精一先生

ところで、この会は橋本初段を段位者として、他の会員たちは皆同じ位の棋力の持ち主であるとの了解があるので、対局は「互先」、先番はその都度、碁石を「握って」決めます。対局中は、全神経を盤面に集中した戦士となりますが、会の大本は囲碁を楽しむことにあります。力の強すぎる相手に幾つもの黒石を前もって置いてハンディ付きで打つ、いわゆる「置き碁」をしてまで勝とうという気持ちは、この会の皆さんとは無縁のものなのです。会はずから、「初段を目指す」という人々の集まりとなり、高段者には時々講師として来ていただくというスタイルが定着しました。

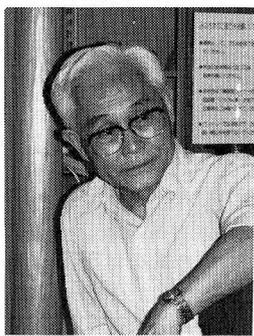
第百回の記念すべき会には、三上滋先生(国語)Ⅱ七段Ⅱを講師に招いて研修したこと、本田正俊先生(故人・数学)は碁も酒も強かったが、ある時酔わせて対局を挑み、負かしてしまつたこと、かつての大泉高校の教職員の中には囲碁の愛好者が多かつたようで、教職員囲碁大会の話や、その大会で優勝した松吉利夫先生(故人・数学)の話など、大泉50年のエピソードの数々が次々と先生方によって語られていきます。

この日の四先生方の他には、図子岩雄先生(校長・理科)、九州から上京した時に合わせて会が開かれるという恒松明先生(社会)、などが常連であり、牧野茂先生(社会)や、畑野正毅先生(数学)もこの会のメンバーでありました。ただ今同好の士を募集中で、特に女性を歓迎することでした。

結局、この日は滝沢先生が最多の二勝を果たされ、全局の結果はスタート以来一度も欠かしたことがない佐田 疆先生



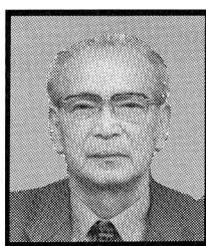
滝沢 順先生



佐田 疆先生



昭和25年に国語科教師として大泉高校に赴任。昭和32年度まで在任。高5期生・高10期生の卒業時担任を勤める。(会報部)



昭和21年数学科教師として大泉高校に赴任。昭和33年までの12年間在任。(会報部)

入山哲弥先生 平成10年3月16日逝去されました。享年76歳でした。先生は大らかな方で、個人の良さを尊重して下さり、皆から「いりせん」と親しまれていました。自由な視点に立った解釈での授業もとても興味深く面白いものでした。「一人一人がちゃんと生きていかなければ、またそれが出来る世の中であければ」と常々語り、闘病中も奥様と共に「病人人としてではなく、人間としてどう生きたら良いか」と前向きに歩まれていました。心よりご冥福をお祈りします。(会報部)

訃報

土屋正夫先生 平成8年10月8日逝去されました。享年85歳でした。いつも折り目正しく、背筋のシャーンと伸びたダンディな先生。「どやさん」と親しみを込めて呼ばれていました。教室では、長い竹製のものさしを背に当て、姿勢正しくテキパキと歯切れの良い授業が印象的でした。大泉を愛し、大泉で教えられた二二年間をととても誇りに思っていました。心よりご冥福をお祈りします。(会報部)

同期会だより

中2期

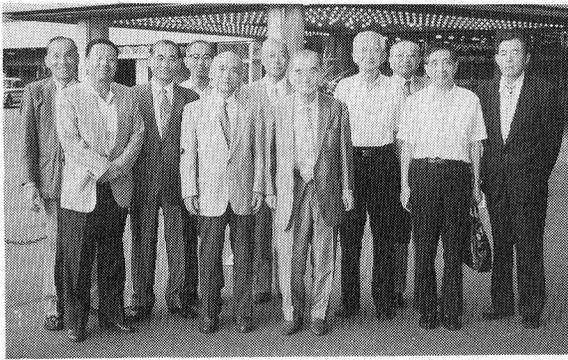
元氣の出る 中学2期の会

安藤 雄一

往年の悪童も秀才も、来年には古稀を迎える齢となり、一様に好々爺になった一苦なのだが、受付を過ぎた途端に、往時の少年の顔になる。

「旧制都立大泉中学校第2期生の会」は、府立第二中学校入学後、動員・疎開転校・軍関係学校への進学等にもまれ続け、戦後の焼跡時代に四年卒業・五年卒業・新制編入とバラバラの体験を経ているので、他の期と異り、入学時の名簿を基に転校生・編入生を含めユニークな構成となっている。

今年の会は猛暑の中、青木元忠先



生(八四才)鈴木高男先生(七九才)

をお迎えし、大手町パレスホテルで開かれた。恒例の講演は、今回特に

青木先生にお願いして、「大泉中学教員秘話」としたところ、出るわ出る

わの珍談・奇談の山(例えば、遅刻常習の某先生が室岡校長の命令で生徒と並んで立たされ、青木・野沢の

両先生が貰い下げ交渉で大汗をかけた話等々)抱腹絶倒、哄笑の渦。「教育にも研究にも個性と情熱を強く持

った凄いい教員達だった。」「動員の引率教官として、一人の犠牲者も出さな

なかったのは幸運だった。」のお話に、一同しんみり納得。

二年後の春、古稀を迎えての盛大な「元氣の出る中学2期の会」を計画している。

高5期

連続一三回

坂井 光

当同期会の記録を見ると、昭和61年からあり、一三年続いていることになり、本当に纏まりの良い会だと思ふ。これも一重に代々引継がれる幹事さんの熱意によるものです。

毎年、梅雨の始まる前、6月初めに行なわれ、今年は6日に池袋西口

隠魯茶屋で開きました。先生方は、高橋茂先生、花崎文一先生、森谷安

吉先生の御三方をお迎えし(前回ご出席の入山哲弥先生は3月16日逝

去)総勢四九名が集まり、二次会を



含め盛況の内に終わりました。

今回、住所の変わった方も多数あり、同期会名簿訂正版を作成、また返信ハガキに近況を書いてもらい、

「同期会近況」として出席者に配布しました。欠席者(一五七通)に対しても、同様に資料を送付したところ

好評でした。今回の出席者の中には、卒業以来初めて会う人もいて、話が次から次

へと尽きないが、50年の空白が瞬時に埋まってしまふ不思議な関係が同期生だと思つづく思いました。

高11期

一生青春

安住 靖子

W杯サッカー、対クロアチア戦で日本がフィーバーしていた6月20日

(土)の午後、11期生の第6回同期会が椿山荘で行われました。梅雨の晴

れ間のむし暑い日でしたが、原田先生、堤先生、尾造先生を含め八七名



の参加をみました。久々の再会に初めは戸惑いもありましたががりハビリ

中の堤先生をはじめ、先生方のお若くて、お元気な様子に我々も負けじとなつかしい話に花を咲かせ、ま

たたく間に高校時代へとタイムスリップし、楽しいひとときを過ごしました。写真撮影、校歌斉唱で一次会

はお開き。二次会は池袋の「浜伸」で4時半より行なわれ、一次会に参加できなかった人も加わりまた一段と盛り上がり、カラオケの三次会へとなだれ

込みました。それぞれの十八番に、それぞれの人生を重ねてみたりしてタイムアップ。

次回は21世紀:「新たな気持ちで一生青春」を誓いあいました。

3年後の二〇〇一年10月のいづみ会総会懇親会(1の会が企画する)にあわせて、11期同期会を共催する事に決定致しました。

還暦の年、母校で会いましょう!!

高26期

あの頃は皆若かった

平野 ゆり

昨年の8月30日、池袋「白雲閣」で、同期会を開催。三年に一度のペースが長く続いています。今回も「おいしい、まだか」の声にせつつかれ、あわてた幹事。不手際な案内にもか

かわらず、同期約60人と先生方も五人おいで頂きました。数学の菊谷先生、田上先生、英語の荻野先生、美術の中荃先生、そして体育の山谷先生は、別の用事を切り上げ、二次会に駆け付け参加で。

開会の乾杯早々のハプニングで幹事の相棒が急用で中抜け!まあ、始まってしまえば、歓談で盛り上がり

ます。近年の野球部の活躍談で、いまだデッカイ声を張り上げるOB達。その中で、マイクをお渡した田上

先生の言葉が思い出されます。「僕が君達を教えた時が、今の君達と同じ歳なんだよ!」

あの頃の我々は、休み時間に「ギン玉鉄砲」を撃ち合う脳天気なガキで。いまだに!? 結局、最終グループは四次会まで盛り上がりました。

さて、次の同期会は、遅ればせの卒業二五周年大会の予定。皆さんご参加を。

同期会、クラブOB・OG会等、いづみ会の会員で構成される会の開催予定、あるいは情報がありましたら、ぜひいづみ会事務局会報部までご連絡下さい。

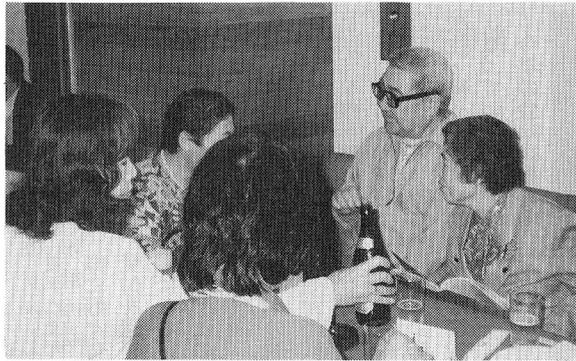
また、会報についてのご意見、感想もお寄せ下さい。

高12期

クマさんの字は健在
板橋 昭寿

昨年引き続き、今年も4月に高校12期の同期会を催しました。連続で開催している成果で、現住所の判明率が60%を超えたので、前回以上の参加を期待していたのですが、参加者は約四十名と予想外に少なく、幹事一同反省したり、残念がったりでした。来年は是非来て下さい。

初めて参加した人は、同期三七〇名のうち既に鬼籍に入っている11名



を知ってビックリしたり、自らの体調を漏らしたり。会半ばまでは「あれ誰だっけ」とか「あの何何してたっけ」なんて言っていたのが「あってお前か」とか「久しぶりね」なんてお喋りの輪の中に入っていたり、すぐに三八年前に戻っていました。

当日は橋本、花崎、畑野、永嶋、小島の諸先生方が出席下さいました。

我々が五六才ですから、先生方はそれなりの歳なわけですが、元氣そのもの。負けてしまいうそでした。病氣のため視力が極度に落ち、咽喉全摘出で声も出なくなり奥様同伴で出席下さった小島先生(クマさん)は、会場で気付かれた事を小さなメモにして廻してくれました。その文字は黒板で見た通りの、まるいやさしい文字そのものでした。

高17期

銀座に咲いた〇〇桜
大山 美智子

去る4月25日17期の同期会が銀座4丁目の「ライオン」で開かれました。四年前、卒業後二九年にして初めて開かれた同期会の第二回目です。今回は先生を交え五〇数人とこぢんまりとした会となりましたが、かえって集まった皆さんがそれぞれ全員と交流できる規模だったように思



います。(自画自賛)一次会ではゲームで盛り上がり、二次会にもほぼ全員参加という盛況でした。三次会まで流れた方もあり、名残りを惜しみつつ次期幹事を2組にバトンタッチして、散会となりました。尤もそれぞれ集まった面々を見れば、「四年ごとでは危ない!」というわけで、今後は二年ごとと相成りました。今回参加できなかった方は次回に是非!

またこのとき、同期の深町純氏のライブを開こうという話も盛り上がり、6月19日六本木のライブハウスは、突然三〇年も平均年齢を押しあげたのでした。

高8期

六つの「十」
宇田川 公子

満開の桜咲く平成10年4月4日(土)還暦記念の同期会を池袋の東武バンケットホールで開催致しました。人生の節目の集いのためか、オランダからわざわざ飛来された方もあり、参加者は前回より四〇名近く多い一五〇余名。橋本、花崎、土屋、中山の諸先生方と小島先生ご夫妻をお迎えして、賑やかな会になりました。還暦を祝して赤ワインで乾杯し、歓談の波が瞬間に広がりました。陶芸家として活躍中の同期の吉村昌也氏のご好意による「還」の字と六つの「十」の字を刻んだ刷毛目盃は、出席者にとって何よりの記念でした。立食式の一次会の後、椅子の用意された同一会場に入り直しての二次会は、移動が少なく雰囲気も変わって好評でした。

会の数日後、身体の具合が悪く家に閉じ籠もりがちだった方が奥様に付き添われて思いきって参加し、皆に温かく迎えられて病氣と前向きに闘う元氣が出たという嬉しいお便りが届いて幹事一同涙が出る程感激しました。心の温まる、元氣の出る会を続けていきたいと思っています。今回は三年後の予定です。



お知らせ

高校9期同期会

日時 平成10年11月14日(土)

午後5時~7時30分

場所 赤坂東急ホテル「金の間」

千代田区永田町2-14-3

☎03-3850-2311

昭和32年卒業の皆さん!楽しいイベントがあります。多くの方々の出席をお待ちしています。

連絡先・真田明広

☎048-474-2697

OB・OG会

並んだユニホーム

浅羽 純一・高42期

陸上部

昨年12月13日、母校大泉高校にほど近い練馬区立勤労福祉会館にて「大泉高校陸上部五十年記念会」が開催されました。当日は天気にも恵まれ、関東はもとより、遠くは名古屋から駆け付けていただいた方も合わせ、OB・OG五三名、現役員とあわせると総勢七〇名もの人数でにぎやかに行われました。

会場には記念会準備に関わったOB・OGが現役当時着ていたユニフォームや現在所属の陸上チームのユニフォームに各々が手書きをしたタイトル字が飾られ、諸先輩方かつての顧問の先生らにより陸上部にまつわる話をいただき、また祝電や写真の上映会など様々なイベントが行われました。中でも懐かしい現役当時の競技風景を収めたビデオの紹介のシーンでは、多くの笑い声の中「キヤ映さないで!」などといった悲鳴にも似た声も聞かれ、大いに盛り上がりました。その後、会場場所を変え二次会、三次会、四次会と果てしなく続き深夜に至るまで多くの思い出話に花が咲きました。

おそらく創部以来はじめてのOB・OG主催による今回の記念会は同時に、OB・OG会の設立をアピールした日でもありました。今後とも各OB・OG名簿の一層の充実を手始めに現役員との活発な交流、ザ

いずみ会総会・懇親会のご案内

年1回、いずみ会会員が集い、親睦を深める場、それが総会です。

と き：平成10年10月25日(日)

12時30分～ 受付開始
 13時～ 総 会
 13時30分～ 懇 親 会
 15時30分 終了予定

ところ：母校 多目的教室・大会議室

会 費：中1期～高37期 2,000円
 高38期～高47期 1,000円
 高48期～高50期 無料

- ★参加される方は、同封ハガキを9月30日迄に投函して下さい。
- ★関連記事が1・2面にありますのでご参照ください。



浅羽純一 03-3921-0316

コーラス部9期の会
 真夏を思わせる程の暑さにおおわれた7月5日(日)、大泉高校音楽部第9期の会合が新宿の京王プラザホテルで開かれ、一六名が集まりました。会は遠山睿氏のテノール独唱、篠崎優子さんのピアノ独奏、林光生氏のクラリネット熱演や大泉高校学生歌、愛唱歌集を西山(旧姓池沢)さんの指揮で歌いまくり、音楽漬の午後を楽しく過ごしました。
 (武市則昭 高9期)

お知らせ

OB合唱団の懇親演奏会
 OB・OG合唱団では、日頃の練習の成果を公開しようということになりました。
 とは言っても月一回二時間の練習量では、独立した演奏会をするのとはとても無理なので、これから一緒に歌ってもらえそうな人達も誘って、

声

大懇親会を開き、その席で披露しようということになりました。
 12月5日夕刻、会場は江古田駅近くのウィーン料理店です。コーラスだけでなく独唱、独奏、他出し物も料理も盛り沢山になる予定です。
 関心のある方の参加を歓迎します。
 (小川陽弘 高3期)

先号のいずみ会報を読んで、大泉の歴史についてひとこと事実を加えて筆をとりました。
 同期会だよりのコラム第5期に「男女共学最初の期」とありました。たしかに、我が大泉の男女共学は実質的には、第5期から始まったと言えますが、実はその一年前、私どもの第4期にすでに二〇数名の女生徒がいたのです。これによって、私達の青春が大いに刺激されたのだから、忘れられません。

そもそも第4期は、尋常小学校に入り、旧制中学校に入学。一方、第5期は、国民小学校に入り、新制(現)中学に入りました。彼らは、私達と教科書も違うし、授業を受ける環境もかなり違っていたと思います。とりわけ私達は「男女七才にして席を同じうせず」という教育を受けてきて、高校一年になり、いきなり女性同級生がで、大変戸惑い、意識過剰になってしまった者が多かったと思います。

その点第5期以降の人達は、早くから男女共学に馴染んでいて、ごく自然に女生徒と話し合ったりしていました。そういう雰囲気から一級上

に女性がいた事も自然な事で気がつかなかったのでしょう。
 一年しか違わないのに、文化というか、氣質の差異がかくあるものかと感じられ、懐かしく当時を思い出した次第です。
 (後藤哲也さん 高4期)

旧姓大塚さんの記事をととても懐かしく拝見しました。生徒会長として壇上に立つ彼女の姿に、きっと社会で大活躍される方だろうと胸を熱くしたものでした。やはり思っていた通りの人生を歩まれた御様子。大泉で学んだ女生徒の一人として誇りを感じました。こういう方を会報でどんどん紹介して下さい。(無記名 高10期・同様の御感想を宇田川公子さん 高8期・伊藤翠さん 高9期より頂きました)

文化祭を見に行つて時代、建物が変わつても大泉高校の気風は変わらなぬものがあると感じた。素直さというか、素朴さをいつまでも伝えていつて欲しい。(堀正哉さん 高30期)

会報を送つてもらうのは二度目になります。中味も濃く、読みごたえもあり、「自主創造」の大泉魂を感じました。(中略)思い起こせば私は新体育館で入学式をし、木造校舎で学んだ最後の世代です。
 (佐藤真紀さん 高38期)

政治活動へのいずみ会名の無断使用したことに対しての抗議と、いずみ会の政治的に中立であるという姿勢に賛同の御意見を次の方々から頂きました。浦田佐恵子さん 高14期・田中慎爾さん 高25期・木原克美さん 高32期 (執行部)

会員訃報(敬称略)

心よりご冥福をお祈りします

- 中1期 義那 一郎 平成9年4月5日逝去
- 中2期 三枝 裕 平成8年1月24日逝去
- 中2期 安藤 保郎 平成8年11月18日逝去
- 中2期 山内 利之 平成9年9月4日逝去
- 中3期 柳瀬西之介 平成7年10月26日逝去
- 高5期 梅田 明子 平成9年1月21日逝去
- 高6期 藤本甚一郎 平成9年9月20日逝去
- 高6期 蓮見 和義 平成9年10月30日逝去
- 高6期 島崎 隆 平成10年5月1日逝去
- 高7期 松田 経彦 平成8年11月21日逝去
- 高9期 村野 好明 平成8年8月16日逝去
- 高9期 小高 克介 平成9年9月30日逝去
- 高9期 石川 毅 平成9年10月12日逝去
- 高9期 吉田 嘉美 (保科)
- 高9期 平成9年10月23日逝去
- 高9期 稲岡 進吾 平成10年6月13日逝去
- 高10期 山本 忠平 平成10年7月30日逝去
- 高11期 古川 真理 平成9年1月24日逝去
- 高11期 山中 隆也 平成10年6月16日逝去
- 高17期 関谷 絵美子 (加山)
- 高20期 志村 眞 平成9年8月6日逝去
- 高20期 平成9年12月15日逝去

訃報受付

FAX 03-3921-0316

コンマ何秒 静から動の世界 競技かるたの達人を訪ねて

いずみ会諸活動にご尽力いただいている新木敬治氏は、本業の税理士の仕事のほかにもうひとつ、かるた(百人一首)の道も究められていて現在最高位の九段・社団法人「全日本かるた協会」の会長を務められています。93年に会長を引き受けられ、運営の中心として、会の法人化に奔走されました。96年に念願であった「社団法人」の認可を得、以来勢いよく廻り始めたコマの回転軸たらんと活躍されています。

現在(社)全日本かるた協会は傘下に関東・東北等九支部を置き、各支部では全国津々浦々、例えば大泉近辺では「多摩小倉百人一首の会」のように同好の士が活動中。正会員は三段以上の資格が必要ですが、一五六〇名を数えています。

大軒 毎年お正月にNHKの「新春かるた大会」で紋付き羽織袴姿の新木さんの競技や百人一首の解説を拝見しています。

新木 テレビは一〇年前から、審判としても出ています。

大軒 かるたは、お正月の優雅な遊びと思っていましたが、テレビ中継で見ると激しい競技ですが……

新木 小・中・高校生の競技会は夏



新木 敬治

あらきけいじ
高2期。明大商学部卒。
1954年島津製作所勤務の後、新木税理事務所開業。東京税理士会神田支部副支部長。現在財団法人東京税理士事務所退職金共済会理事。社団法人全日本かるた協会会長。九段

大軒 史子

おおのきふみこ
高9期
青山学院女子短期大学非常勤講師。国文学専攻

休みが主です。大学生連盟の選手権試合もあります。競技かるたは一対一、各25枚ずつ。相手の札を取る

と自陣の札を相手側に送り、早くなくなった方が勝つ。お手付きをすると、相手の札がこちらに送られます。何組も同時に取る大きな会では一試合一時間くらいです。

A級の人は、自札は並べながら、相手の札は3分間程見るだけで、暗記します。「2分前」の声で、素振りをして試合に臨みます。

大軒 1秒ではなく0・何秒の世界ですね。

新木 札を取るのに「半音で取れ」と言います。「かぜをいたみ」の「か」はKA、「きみがため」の「き」はKI、「K」音で取らないと、「か」「き」と読まれた時には既に札は無いのです。

大軒 俊敏な判断力と、運動能力ですね。ところで、新木さんはどんなきっかけでかるたを始めたのですか。

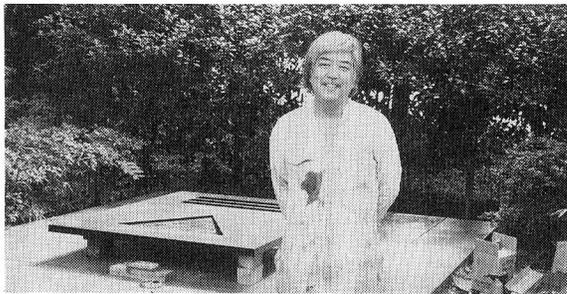
新木 戦争中群馬に疎開するとき、父が「百人一首」も荷物の中に加えたのです。戦後東京に戻った正月、馴染みのかるたが出てきて、平和を痛感しました。まだまだ世の中は食糧難の時代でしたが……。兄の友人達

も含めて大勢でかるたをしました。**大軒** その中で抜群に上手だった……。**新木** まあ、御想像に任せます。大泉を卒業した年の夏、芝の増上寺でかるた大会があるという看板を見て出かけたのです。それから大塚の、現在の「かるた会館」に誘われ、セーラー服の女学生と対戦して、28対0で負けました。25枚の場札です

よ。愕然としました。それから手帳に対戦相手と札の種類を記録し、百枚を四等分しては並べ、5分で暗記、を繰り返す20分を、朝晩二回、毎日実行しました。ただ先輩に勝たたい一心でした。今にして思うと、大泉でのバレーボール部の経験が、あの頃を支えてくれたのではないかと、私たちが関東選手権をとりましたが、何しろラグビー部もふるえ上がった猛練習でした。

大軒 かるたの魅力とは。

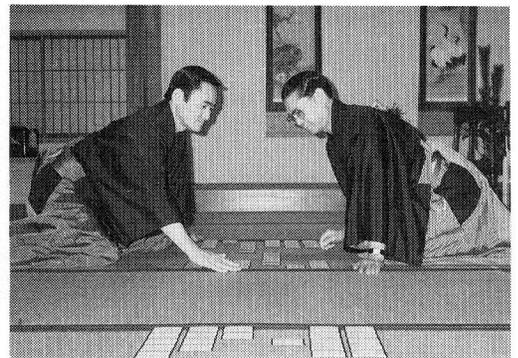
新木 静寂の裡に読み手の声が響く、一瞬のうちに裂帛の気がほとばしり、



1997年10月に作者の手により、お化粧直しがされました。
題名 空存82-2「創造の泉」/150×200×110cm

母校の校門を入れて直ぐの左手の木立の下に、抽象彫刻作品があるのをご存じですか。この彫刻は13年前の母校増改築記念事業完成の際、彫刻家の山本衛士氏(高17期)より母校に寄贈されたものです。氏のテーマである「大地と宇宙の間に生きる人間の依りどころ」を表現した作品で、1982年のフジテレビギャラリーでの個展の出品作を移設したものです。

山本衛士 高17期。71年日本大学芸術学部美術科彫刻卒。73年同研究所終了。73年彫刻の森美術館大賞、現代日本彫刻展で大賞受賞。86年より鷺宮アトリウムを主宰



動へ移る、その静から動への瞬間は、何にも換え難い魅力です。また、暗記した50枚を引きずっているような試合に勝てません。一日に七回戦を行う事もしばしばですから。「忘れる」事は「覚える」より難しいのです。「忘却」の価値に気がかされました。**大軒** お話ありがとうございました。

編集後記

■現在いずみ会の会員数は約二万人で、そのうち約一万五二〇〇人の会員に会報を送っています。目に止まり、読んで頂ける紙面作りに知恵をしぼっています。■他校の同窓会紙を何紙か取り寄せたところ、カラー頁広告、特集ありと立派なものにびっくり。でも、お金をかけずに、手間ひまかけて「大泉」らしく、中味で勝負します。■読みやすい紙面を目指して、本号から紙面サイズをB5判からA4判に変え、文字も一回り大きくしました。写真もできる限り多く入れました。横書き組みは今後の課題です。■ここ数年の同期会開催の期をみると、高校卒業から20年位たつと同窓会に参加する余裕がでてくるようです。高30から40期代の若い世代からのフレッシュな情報もどんどんお寄せください。■かるたの達人新木氏。本職とは別の世界でその道を究められた大泉生の話は、不思議と元気が出ます。当会の様々な分野の達人をこれからも発掘してゆきます。■8面「王の会」の取材で大泉の先生方のサークルが他にも沢山あることが判りました。和やかな雰囲気をもた紹介したいと考えています。

「会報いずみ」に関するご感想、ご要望、その他いずみ会に対するご意見等をお聞かせ下さい。

「宛先」
〒112-0014 文京区関口1-8-6-706

宇多正行法律事務所内
いずみ会事務局

印刷所/一光印刷所
電話 03-3953-3336